

青山学院女子短期大学入試制度の歴史

谷本 信也

〈要旨〉

1950年に短期大学制度が始まり他の148校とともにスタートした青山学院女子短期大学の入学試験は、他校と同じように各時代の流れに押されつつ、その様子を変えてきた。初期の短期大学の入学者数は大学のそれに比べ1/5ほどしかなく、規模も小さい中で学生を受け入れていたが、50年でも本学は女子短期大学生の7.7%、全学生の4.5%を受け入れており、多くの学生を受け入れていた。そして、2回のベビーブームまでは、通常の国語、英語、社会・数学のペーパーテストによる1日だけの3科目入試を主な柱とし、入試を維持してきた。しかしこの間には、青山学院の設置校である高等部からの推薦入試、キリスト教学校同盟高校からの推薦入試、外国人留学生入試、指定校推薦入試、海外帰国者入試、卒業生の子女対象の卒子女入試を始めている。90年代後半からの18歳人口減少と女子の四年制大学志向などによる受験生減などを受け、より多様な学生を受け入れられるようにと、キリスト者入試、自己推薦入試、社会人入試を新たに加え、センター入試を導入し、2科目入試、小論文と面接の後期入試が加えられた。

キーワード：入試制度、短期大学、3科目型入学試験、推薦入試

はじめに

学校を運営していく上で入学試験による優秀な学生の確保は必須であるといえよう。「学校教育法」の第一条によって学校と認められ第九章で定められた短期大学への入学は第九十条にあるものでなければならず、入学試験の内容にもそれが反映されなければならないので、文部科学省からの通知によって各校の入試内容が規定されている。しかし、その中で各校は自身の教育目標や選抜目標にあった受験生を選ぶべく、全国横並びではない入試を行っている。短期大学制度が発足した1950年から現在まで女子短期大学として一貫して女子高等教育を担ってきた青山学院女子短期大学が、どのようにして入学試験を行い学生を確保してきたかを見てゆくことは、過去を知る上で重要なことであり、これからを考える上でもよい資料となることであろう。

1. 短期大学入学試験の歴史—1950年から今に至る四年制大学・短期大学の受験者数・入学者数の比較（文部科学省の学校基本調査に拠る）—

短期大学は、1949年の「学校教育法」附則第百九条にある「大学の修業年限は、当分の間、第五十五号第一条の規定にかかわらず、文部大臣の許可を受けて、二年または三年とすることができる」、「前項の大学は、短期大学と称する」という条項によって翌1950年に国公立計149校で始まった。入学者数では4年制の10%にも満たないが、それでも大学に進んだ女性の36%が短期大学であるように、女性の入学者数が多い大学であった。その後今に至るまで全国の受験者・入学者がどのように変わってきたのかを見、青山学院女子短期大学のそれと比較することによって、青山学院女子短期大学の入試の歴史を明らかにしてゆくこととしたい。

1950年

短期大学は、1950年に国立0、公立17校、私立132校計149校で始まった。この年の新制大学数は201校（国立70校、公立26校、私立105校）であるので、学校数だけの比較をすると、大きな違いはなかったことになるが、学校の規模には差があり、募集人員数は新制大学が短期大学の6.3倍であった。1950年の学校基本調査結果によればこの年、新制四年制大学それに短期大学を合わせて募集人数103,890人に対し、入学志願者数は209,264人で、内女性は志願者数24,913人で11.5%を占めていた。大学のみでみると、募集人数は89,640人、志願者数は197,421人で女性は17,233人であり女性の割合は8.7%であった。短期大学では募集人数が14,250人、志願者数総数は11,843人で女性が6,790人で58%と半数を超えているが男性志願者数と大きな違いはなかった。一方、大学と短期大学全体の入学者総数は85,514人であり、新制大学も短期大学も、募集人数より少ない入学者数であった。女性の入学者は13,465人であってその割合は15.7%となり、入学者の割合が受験者割合より高くなっていた。また入学率からみると男性は38.1%、女性は49.8%であり、男性のほうが受験対象校を増やしていることが窺える。大学のみでみると、入学者数は77,181人、女性のみでは8,584人であり、女性の比率は11.9%であった。短期大学の入学者は8,333人であり女性は4,881人であるので58.6%で男性より多いが、女性だけでみると大学と短大での入学者数の割合は64%と36%と、おおよそ2:1の割合であり、大学への進学者が多いことがわかる。そして、大学入学者での男女比は88:12で圧倒的に女性が少なく、短期大学での男女比も41:59と逆転してはいてもそれほど多いとはいえない。女性でも入学者数は短期大学へは1/3であって2/3が大学へ進学しているのであった。四年制が男性中心であり短期大学はその反対で女性中心であるということではない様子が志願者数や入学者数の対比からも理解される。私立短期大学協会が発行している会報¹⁾によると、入試調査回答校100校の回答結果からは、男子のみと男子が主とする学校が計23校、共学校が22校、それ以外は55校と男子対象と女子対象の校数はそれほど差がない時代であり、学科数も商業または

経済が142のうち20もあって応募者数は全体の34.7%を占めており、学生数から見ても法商経が36%で最も多く、次いで文科が24%という、現在とは異なった様子であった。

1951年

翌1951年では国公立短期大学校数は夜間も含めて180校（募集学校数は179校）と増え、新制四年制大学201校の志願者数は、昨年まで募集を行っていた募集人員16590人を擁する旧制大学が募集停止を行なったこともあり、340,829人と増加し、入学者数は110,255人、この内女子志願者は31,303人、入学者は13,863人である。女性志願者の割合は9.2%で増加し、女性入学者の割合も12.6%と上がっていた。一方、短期大学では学校数はそれほど増えていないが、募集人員が23,568人、志願者数は35,422人、入学者数が21,802人と昨年に比べて倍増していた。このうち女性志願者数は16,981人で47.9%、入学者は10,098人で46.3%と、短期大学も男子学生が多いにもかかわらず専門学校を除く高等教育（以後、高等教育という言葉を使う場合は、高等専門学校を除いた短期大学・四年制大学での教育を意味し、大学という言葉を使った場合は短期大学と四年制大学の両方を意味することとする。）での学びを始めた女性23961人の中の42%を受け入れていて四年制大学への進学との割合が減少したことが分かる。

1955年

その後短期大学数は増加を続け、1955年には国立17校、公立43校、私立205校、合計265校となって1950年と比べると1.9倍と増えていて全国に広がっていったことが窺える。この間に新制4年制大学数は201校から228校への増加に留まっていた短期大学の校数が上回ったが、入学定員数は四年制大学が4倍ほども大きい。短期大学の総入学定員数は第一部（昼間）が23,441人、第二部（夜間）が11,675人となった²⁾。この数値から夜間での教育にも多くを割いているのが短期大学の特徴といえるのであるが、夜間の入学定員の約40%が商経に関するものであり多くが男性を主な対象としていたのであって、二部のみの短期大学が48校、二部も併設が46校もあった。私立短期大学協会の会報によれば³⁾、入学定員学科別割合でみても家政に関するものが27.8%、商業経済に関するものが22.4%、文科に関するものが20.1%、工業に関するものが9.9%であったし、入学定員でみても34.1%が第二部で占められていた。この年の四年制大学志願者数は658,343人で女性は69,745人で10.6%であった。50年、51年よりも増え10%台にまで至った。入学者数は136,467人であって女性は20,246人で14.8%を占め、これも50年、51年より増えていた。短期大学をみると、制度が始まった年と比べて約2倍の志願者数、73,255人であり、女性は44,977人で61.4%と女性の割合が60%を超えていた。また入学者数は37,554人で1950年の4.5倍と増加しさらに女性は21,398人と女性の割合が57.0%まで上がっていたが、まだ1950年の58.6%よりは低い数字であって、この頃までは短期大学での高等教育を受けて社会に出てゆく男性も一定程度存在したことが伺える。また、高等教育を受ける全1学年生のうち女子学生は23.9%で

あって5年前の15.7%からは上がっているが短期大学生の割合が54.7%となっていて50%を超え、女性は短期大学へという流れが定まってきたようであった。

1960年

短期大学制度が始まって10年後の1960年になると、短期大学数は149校から倍近い280校へと増加したが、1955年からの5年間だけの増加は15校であった。新制四年制大学数も1955年からは245校へと17校増えただけであった。この年の新制四年制大学の総志願者は800,720人であり、女性志願者は82,096人であって10.3%と5年前より0.3ポイント減っていた。総入学者は162,922人で女性入学者は24,508人であって15.0%という数値は50、55年よりも微増していた。一方、短期大学は総志願者が87,160人であってそのうち女性は63,990人と73.4%を占め、総入学者42,318人の内女性は29,625人と70.0%であって、短期大学内での女性の割合が大きくなってきていた。1963年の学生数を見ても家政系が38.7%で一番多くついで文科の19.7%であって、初期に多かった法商経は17.8%と短期大学が変容してきたのであった。ただし、学生数は少ないにせよ、国公立短期大学では変わらずに法商経の専門職業的色彩の濃い学科を中心に運営されていた。そして、四年制大学と短期大学の女子学生数は総計54,131人であって高等教育を受ける女性の割合は26.4%と2.5ポイント増えていて短期大学生の割合が54.7%と半数以上を占めていたが、この割合は5年前と同じであった。また、保護者の所得5階層で分けて短期大学入学生の保護者の割合を四年制大学とのそれと比較すると⁴⁾、上位2階層の80万円以上で短期大学生のほうが割合が高く、下位3階層である80万円以下では四年制大学で割合が高いことから、男子学生に対してもともと女子大学生の割合が大幅に低いこともあり女性を大学に送る家庭は所得が高い層に多いといえるであろうし、短期大学に行かせる家庭自体も所得が高いといえるのかもしれない。これは、出身高校を公立・私立の割合で比べると、23.7%に対して38.5%と短期大学のほうが私立出身学生の割合が高いことから類推もできる。

1965年

短期大学数は5年前の280校から369校へと1.3倍へ増えたが、国立と公立は各1校増のみであって、私立が214校から301校へと増加したことによっている。一方四年制大学数も245校から317校と、両制度とも1.3倍ほど増えていた。そして入学者数で見ても、短期大学は1960年では総計42,318人であったものが、65年では80,563人と大幅に学生数を増やし、四年制大学も、162,992人から249,917人と増やしていた。この年の新制四年制大学の総志願者は1,203,337人であり、女性志願者は168,393人であって14.0%と5年前より3.6ポイントも増えていた。総入学者は249,917人で女性入学者は44,232人であり17.7%を占め以前より大きく増加していた。一方、短期大学は総志願者が171,135人であってそのうち女性は141,524人と82.7%を占め、総入学者80,563人の内女性は68,763人と85.4%であって、女性の割合がさらに大きくなってきていた。私立短期大学の一部の学生数は70,565名、一部と

二部及び二部のみと三部の総学生数は9,745名と、昼の学生が大多数となっており、商科系の学生数も昼夜合わせて全体の7.4%でしかなく、実業界志向の男子学生も多い初期の短期大学からは大きく変化していた。そして、大学の女子学生数は総計112,995人であって高等教育における女性の割合は34.2%と7.8ポイント増加していたが、短期大学生の割合が60.9%と半数以上を占めていて、この割合は5年前より6.2ポイント増えていた。高等教育を受ける女性の割合は四年制、短期大学とも増え続けているが、短期大学へ向かう女性の増加の割合がより大きいということであった。

1970年

短期大学数は5年前の369校から479校へと増えたが、国公立は計3校減少し、私立が301校から414校へと増加したことによっている。一方四年制大学数も317校から382校と、両制度とも同じように増えていた。そして入学者数で見ても、短期大学は1965年では総計80,563人であったものが、70年では126,659人と大幅に学生数を増やし、四年制大学も、249,917人から333,037人と増やしていた。この年の四年制大学の総志願者は1,943,207人であり、女性志願者は282,166人であって14.5%と5年前より0.5ポイントも増えていて増加傾向は変わらなかった。女性入学者は62,093人であって女性の割合は18.6%となりこれも以前より増加していた。一方、短期大学は志願者数が252,699人で女性志願者数は214,151人と84.7%を占め、女性入学者が106,952人であるので割合は84.4%となって5年前よりは1ポイント減っていたが、女性の割合は大きなままであった。大学の女子学生数は総計169,045人であって高等教育における女性の割合は36.8%と2.6ポイント増加していたが、短期大学生の割合が63.2%とこれまでで最大であった。高等教育を受ける女性の割合は四年制、短期大学とも増え続けているが、短期大学へ向かう女性の増加の割合がより大きいということであった。

1975年

短期大学数は5年前の479校から513校へと34校増えたが、国公立が計14校増、私立は20校増で434校と増加した。一方四年制大学数も382校から402校と20校増と、両制度とも同じように増えた。そして入学者数で見ると、短期大学は1970年では総計126,659人であったものが、75年では174,930人と大幅に学生数を増やし、四年制大学も、333,037人から423,942人と増やしていた。この年の四年制大学の総志願者は2,756,699人であり、女性志願者は526,435人であって19.1%と5年前より4.6ポイントも増えていて増加傾向は変わらなかった。女性入学者は97,111人であって女性の割合は22.9%となりこれも以前より増加していた。一方、短期大学も志願者数が379,166人と67%も増え、女性志願者数は343,954人と90.7%を占め、女性入学者が154,110人であるので割合は88.1%となって今までで最高であった。四年制大学と短期大学の女子学生数は総計251,221人であって大学での高等教育における女性の割合は41.9%と36.8%から5.1ポイント増加していて、女性の割合が40%を

超えたのだった。短期大学生の割合は61.3%と5年前より1.9ポイント低下し、高等教育を受ける女性は四年制、短期大学とも増え続けていても、四年制大学へ向かう女性の増加の割合がより大きいという変化があった。

1980年

短期大学数は5年前の513校から517校へと4校増のみであり、国公立は計6校増、私立は2校減であって432校となった。一方四年制大学数は382校から446校と、62校増えており、短期大学数の微増とは大きな違いを示した。しかし、入学者数で見れば、短期大学は1975年では総計174,930人であったものが、80年では178,215人とほとんど変わらず、一方四年制大学でも、423,942人から412,437人とほとんど変わらなかった。この前後の年は、戦後のベビーブームといわれた18歳人口の多い年である1960年代前半とその子どもたちが育ってきた1985年から1993年頃のちょうど間の年であって、18歳人口が少ないことも影響している。この年の四年制大学の総志願者は2,658,633人と5年前より減っていて、女性志願者も496,125人であって減っていたが18.7%を占めていた。5年前は19.1%であったので始めて減少した。しかし、女性入学者は95,079人とこれも減っていたが入学者に占める女性の割合は23.0%でありこれは5年前より0.1ポイント増加していて女性の高学歴志向が高まったともいえよう。一方、短期大学は志願者数が474,123人と1.25倍となり、女性志願者数でも442,654人と1.29倍となって93.4%を占め、女性入学者は161,950人で1.05倍と増え女性の割合は90.9%と短期大学生はほとんどが女性であるようになった。大学の女子学生数は総計257,029人と2.3%増え、両高等教育における女性の割合は44.3%と1.4ポイント増えてほとんど半数は女性ということになった。短期大学生の割合は63.0%と5年前より1.7ポイント、10年前より3.6ポイント増えていて高学歴志向がある一方で短期大学志向もまだまだ存在していた。

1985年

短期大学数は5年前の517校から543校へと26校増加した。国公立は3校増、私立は23校と増えての結果であった。一方四年制大学数は446校から460校と14校増えているが、短期大学と同じく大幅な増加は見られなかった。そして、入学者数で見れば、短期大学は1980年では総計178,215人であったものが、85年では173,503人と初めて減少したが、この年は出生率が前年よりも25%下がった丙午生まれの受験生が大多数を占めていたのであった。一方四年制大学でも、412,437人から411,993人とこちらも減少した。この年の四年制大学の総志願者は2,729,799人と5年前より2.7%増であったが、女性志願者は503,450人と1%だけ増加していて総志願者数に対する割合は18.4%と0.3ポイント下がったので、5年前の減少に続いて今回も減少した。しかし、女性入学者は104,033人と9%ほど増えており入学者に占める女性の割合も25.3%と5年前の0.1ポイント増加どころではなく2.3ポイント増を示し女性の高学歴志向が高まったことがはっきりとした。そして、短期大学も志願者数が

480,831人と1%ほど増えたが前回の25%増に比べれば増加は少なかった。女性志願者数でも445,111人と増加は1%以下であったし、女性入学者は157,826人と2.5%減少していた。入学者のうち女性の割合は90.6%と前回とほとんど変わらなかった。大学的女子学生数は総計261,859人と1.8%増え高等教育における女性の割合は44.7%と0.4ポイント増えて半数に少しずつ近づいてきた。短期大学生の割合は60.3%と5年前より2.7ポイント減ってきていた。

1986年

1985年は丙午生まれの受験生が大半であった年なので、翌年も見ておくことにする。短期大学数は6年前の517校から548校へと31校増加した。国公立は4校増、私立は28校と増えての結果であった。一方四年制大学数は446校から465校と19校増えているが、短期大学と同じく大幅な増加は見られなかった。そして、入学者数で見れば、短期大学は1980年では総計178,215人であったものが、86年では206,083人と増加していた。一方四年制大学は、412,437人から436,896人と増加した。この年の四年制大学志願者は2,918,628人と6年前より9.8%増であったし、女性志願者は550,959人と11%増加していて、総志願者数に対する割合は18.9%と0.2ポイント上がったので、6年前の減少から今回は実質増加に戻っていた。そして、女性入学者は113,119人と19%ほど増えており入学者に占める女性の割合も25.9%と6年前よりは0.9ポイント増え、昨年よりも0.3ポイント増を示していて、女性の高学歴志向がさらに高まっていた。そして、短期大学でも志願者数が613,144人と6年前より29.3%ほど増え、前回の25%増を上回った。女性志願者数も570,777人と6年前より大幅に増えて28.9%増であった。女性入学者は189,485人と17%増加した。入学者のうち女性の割合は91.9%と前回とほとんど変わらなかった。大学的女子学生数は総計302,602人と17.7%増え高等教育における女性の割合は44.1%と0.2ポイント減ってはいたが、それでも半数に近い数値であった。短期大学生の割合は62.6%と6年前より0.4ポイント程だが減ってきていて、86年以降は毎年のように減り続けるのであった。

1990年

短期大学数は5年前の543校から593校へと大幅に増えていた。この間に国公立は計7校増、私立は43校増で私立総計498校となり、増加の大部分は私立によっていた。この変化は設置学科の改組転換も伴う人文系、社会系、家政系の増加がなされたことによっている。一方四年制大学数も460校から507校と47校増え、短期大学と同じく大幅な増加が見られた。そして、入学者数で見れば、短期大学は1985年では総計173,503人であったものが、90年では235,193人と前回の減少を挽回していた。一方四年制大学でも、411,993人から492,340人とこちらも大幅に増加した。この年の四年制大学の総志願者は4,639,890人と5年前より1.7倍と増加したが、戦後のベビーブーム世代の子どもによる18歳人口増がその原因であった。女性志願者は1,004,160人であり総志願者数に対する割合は21.6%と今までに

なかった20%にとどいた。女性入学者も148,648人で入学者に占める女性の割合も30.1%と初めて30%に達した。そして、短期大学は志願者数が838,685人であり女性志願者数は782,476人で93%ほどを占め、女性入学者は217,474人で女性の割合は92.5%とさらに増えていた。大学的女子学生数は総計366,122人であり高等教育における女性の割合は50.3%と5.6ポイント増えてついに50%を超えた。短期大学生の割合は59.4%と以前より減り、女子高等教育での短期大学の役割が下がってきていた。

1995年

短期大学数は5年前の593校から596校へと微増に留まった。この間に国立は5校減、公立6校増と逆の動きであった。私立は2校増のみであった。一方四年制大学数は507校から565校へと58校増え、短期大学とは異なる動きを見せた。そして、入学者数で見れば、短期大学は1990年では総計235,195人であったものが、95年では232,741人と減少した。一方四年制大学では、492,340人から568,576人と大幅に増加した。この年の四年制大学の総志願者は4,627,854人と5年前より1万2千人減ったが女性志願者は1,004,160人から1,307,065人と増え総志願者数に対する割合が28.2%とさらに増加した。女性入学者も198,485人で入学者に占める女性の割合も34.9%と1/3を女性で占めた。そして、短期大学は志願者数が696,384人で17%も減っていて女性志願者数は637,218人で92%ほどを占め、女性入学者は212,229人で女性の割合は91.2%であった。大学的女子学生数は総計410,714人であり高等教育における女性の割合は51.3%とさらに1.0ポイント増えた。一方、短期大学生の割合は51.7%と7.7ポイント減で半数ほどにまで減った。

2000年

短期大学数は96年度が最大で598校まで増えたがそれ以降は減り始めて、5年前に比べると24校減少して572校になった。この間に国立は16校減、公立5校減、私立は3校減であった。一方四年制大学数は649校へと84校増え、短期大学校数を大きく上回って短期大学減とは対照的であった。そして、短期大学の入学者数は141,491人と、約39%も減っていた。一方四年制大学では、599,655人と1.22倍に増えていた。入学者合計数は741,146人で5年前の801,317人に比べて6万人も減っていたが、これは18歳人口の減少によっていることが大きい。この年の四年制大学の総志願者は3,451,272人と5年前より117万6千人減ったが女性志願者は1,268,570人で3万8千人減に留まっていて総志願者数に対する割合は36.8%とさらに増加した。女性入学者も232,501人で入学者に占める女性の割合は38.8%と4割に近づいた。そして、短期大学は志願者数が284,092人であり女性志願者数は256,383人で90%ほどを占め、女性入学者は127,099人で女性の割合は89.8%であった。大学的女子学生数は総計359,600人であり両高等教育における女性の割合は48.5%と3.2ポイント減っていたが、短期大学生の割合は35.3%までに下がっていて女性が四年制大学で学ぶことが普通になってきた。

2005年

短期大学数は84校減って488校となった。国立は10校減で26校となり、公立も13校減で42校のみとなった。私立も58校減と大幅に減った。一方、四年制大学数は726校で77校増え、短期大学減とは対照的であった。そして、短期大学の入学者数は99,431人と、約30%も減っていた。一方四年制大学では、603,760人と0.7%増えていた。入学者合計数は703,193人であって4万人も減っていたが、これは18歳人口減と短期大学志願者減が原因である。この年の四年制大学の総志願者は3,589,251人と5年前より約14万人増えたのであり女性志願者は1,388,642人で6万3千人増加し総志願者数に対する割合は38.7%とさらに増加した。女性入学者も262,297人で入学者に占める女性の割合は43.4%と4.6ポイント増で5割に近づいた。そして、短期大学は志願者数が190,904人であって女性志願者数は168,478人で88%ほどを占め、女性入学者は86,957人で女性の割合は87.5%であった。大学の女子学生数は総計349,254人であり両高等教育における女性の割合は49.7%と再度50%に戻ったが、短期大学生の割合は更に下がって28.5%までになった。

2010年

短期大学数は87校減って395校となった。この間に国立は無くなり、公立は18校減で26校のみとなった。私立も67校減と大幅に減った。一方、四年制大学数は778校で53校増え、短期大学数をはるかに上回り約2倍の校数となった。在籍者数では155,273人に対して2,887,414人と、18.6倍という差になっていた。

そして、短期大学の入学者数は72,047人と、5年前と同様に約30%も減っていた。一方四年制大学では、619,119人と1.7%増えていて短期大学の8.6倍にもなっていた。入学者合計数は691,166人であって4千人ほど減っていた。この年の四年制大学の総志願者は3,751,050人と5年前より約16万人増えたのであり女性志願者は1,502,180人で56万7千人増加し総志願者数に対する割合は40.0%と40%をはじめて超え増加した。女性入学者も268,182人で1万6千人ほど増えたが、入学者に占める女性の割合は38.8%と再度4割以下に下がった。そして、短期大学は志願者数が115,598人であり女性志願者数は103,047人で89%ほどを占め、女性入学者は63,924人であって女性の割合は88.7%であった。大学の女子学生数は総計332,105人であり高等教育における女性の割合は48.0%と再び下がったが、短期大学生の割合は更に9.3ポイント下がって19.2%までになった。

また、2007年度の「私立大学・短期大学等入学志願動向」⁵⁾によると、私立短期大学全365校の定員充足率は91.2%であり、私立大学全559校では109.0%であったし、未充足校は私立短期大学が61.6%であり、私立大学でも39.5%が未充足であった。そして、2009年度の短期大学分野別学生数をみると、学生数の割合の多い順に教育（29.6%）、家政（20.5%）、人文（12.4%）、社会（11.9%）であり、就職先では、医療・福祉（40.8%）、卸売業・小売業（13.8%）、教育・学習支援（13.0%）であって、1963年の教育分野が家政（38.7%）、文化（19.7%）、法商経（17.8%）、理工系（12.9%）、教育（5.7%）、就職先が、製造業・卸売業・

小売業 (38.8%)、教育 (21.3%)、金融業 (9.0%) とは、大きく変わってきていることが分かる。

2013年

短期大学数は36校減って359校となった。最大の年は1996年で598校が存在していたので、60% まで減ったことになる。入学者数では220,875人に対し64,653人であるので、29% でしかなく、校数だけではなく規模においても縮小していることが明らかである。公立は7校減で19校のみとなった。私立も29校減と大幅に減って340校と、最大の1997年に504校であった数に比べて68% まで減ったのであった。一方、四年制大学数は782校で4校増え、短期大学の2.18倍と数をはるかに上回り約2倍の校数となった。1998年に短大数が588校、四年制大学が604校と数の上で短大数が少なくなってから、15年でこのように差がついたのであった。在籍者数で比較してみると、138,260人に対して2,868,872人と、20.7倍という大きな差がついていた。そして、短期大学の入学者64,653人は2010年と比べて約10% 減っていた。一方四年制大学では、入学者数は614,183人と0.87% 減に留まっていて、短期大学の9.5倍にもなっていた。入学者合計数は678,836人であり、1万2千人ほど減っていた。この年の四年制大学の総志願者は3,970,026人と3年前より約22万人増えたのであり、女性志願者は1,644,232人で14万2千人ほど増加し、総志願者数に対する割合は41.4% であって40% をはじめて超えた3年前よりさらに1.4ポイント増加した。女性入学者も274,682人で6万5千人ほど増えたが、入学者に占める女性の割合は44.7% と3年前の38.8% に比べて大きく伸び、再度4割を越えて50% に近づいた。そして、短期大学は志願者数が106,354人であり女性志願者数は94,374人で89% ほどを占め、女性入学者は57,448人であって女性の割合は88.9% であった。大学の女子学生数は総計332,130人であり高等教育における女性の割合は48.9% と再度50% に近づいたが、短期大学生の割合は2010年より0.3ポイント上がっただけの19.5% まででしかなかった。

2. 青山学院女子短期大学入学試験の歴史

本学関連のデータはほとんどが教授会記録と青山学報によっているので、個別の提示はそれ以外の文献を引用した場合のみに留めてある。

1950年

文部省大学学術局長による「新制大学、短期大学及び旧制専門学校への入学者選抜要領及び進学適性検査実施要項について」の内容は翌年の通知 (文大大第761号 昭和25年8月16日) でも同じであり、その内容の中で、策定した入学者選抜実施要領入学試験対象者は大学入学資格認定志願者、合格者数等調でみて、旧中学校卒業生・高等女学校卒業生・実業学校卒業生・旧師範学校予科修了生・旧師範学校本科第1部修了生・旧青年師範学校本

科修了者及び卒業者・高等小学校卒業者・小学校卒業者・各種学校修了者卒業者・新制高校中退者・新制中学校卒業者・軍関係学校出身者・新制高等学校在学者とあり、各大学が新制高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者であればよいことから、多様な入試によって幅広く人材を求める形の入試が行われた。入試の方法は、(1) 入学試験の結果は筆答試験と身体検査及び出身学校長から提出される調査書の各成績を総合して決定すること。(2) 筆答試験は進学適性検査と学力検査の両者を実施すること。ただしこの進学適性検査は「高等教育を受ける能力を十分に検出することができるように適当に計画すること」とあるが、国立学校の進学適性検査問題は文部省に於いて作成し全国一斉に実施するので公立や私立も合流することができるとした。(5) では、学力検査は、国語、社会、数学、理科、外国語の5教科を出題の範囲とし、この範囲の全教科に亘って出題することが望ましいとされた。

青山学院女子短期大学の入試は以下のように行われた。15日（水曜）入学資格認定試験（国文3名、英文10名、家政8名）を国語（9：00～9：50）、数学（10：00～10：50）、社会（11：00～11：50）、理科（13：00～13：50）、英語（14：00～14：50）。16日（木曜）学力試験（国文51名、英文215名、家政165名）、国語（9：35～10：55）、文科の英語と家政科の理科（11：10～12：30）、社会（家政は一般家政も科目に13：20～14：40）、身体検査（家政のみ15：00～）、17日（金曜）進学適性検査（国文36名、英文119名、家政103名で（9：35～11：35）、社会は日本史、世界史、人文地理、一般社会、時事問題、からの選択であり、理科は物理、化学、生物、地学、からの選択であった。続いて文科のみ身体検査（12：30～）が行われた。

2学科併願を認めたうえでの毎年の結果は表2-1にまとめてあるが、初年度入試は総入学定員250人のところ一般入試受験者数が431人であり、さらに女子専門学校より推薦の52人、女子高等部よりの48人、別科よりの41人、専修科よりの11人の受験者を加えて、入学者数は375人となり、全国では入学定員より少ない入学者数でしかなかった中で（表1-1）、順調なスタートを切ったといえよう。

1951年

3月10日（土曜）に入学資格認定試験を9：00～12：00、1：00から3：00の間に各1科目50分をかけて行った。学力試験は、3月12日（月曜）に国語（10：00～11：30）、文系の英語（13：00～14：30）、13日（火曜）社会（10：00～11：30）、家政科は一般家庭でも可、理科（家政科のみで13：00～14：30）を行い、14日（水曜）午前に進学適性検査を行った。身体検査は家政が12日午後、英文受験生の大部分は13日午後、女子高等部からの40人を含む残りの受験生は14日午後に行った。この年、文科英文専攻は入学定員を50人増として150人に変更したが、各学科とも受験生数は倍増し、一般入試総受験者数は1151人となった。そしてこれ以後も入学定員を割ることはなかった。

1952年

3月10日（月曜）文科国文専攻が国語（9：30～11：00）、英語（11：20～12：20）、文科英文専攻が英語（13：30～15：00）、国語（15：20～16：20）、というように専攻別の出題を行い、時間も昨年の90分から一昨年に近い時間へ変更をおこなった。11日（火曜）は午前に進学適正検査（9：50～10：30）を行い、午後に社会または一般家庭（13：00～14：00）を行い、12日（水曜）には家政科のみ理科（9：30～10：30）、国語（10：50～11：50）を行った。身体検査は行わなくなった。文科国分専攻の入学定員を50人から80人に増員したが、受験者数も138人から375人へ3倍近くにも増えた。総受験者数も昨年の1.6倍と増えていた。また、女子高等部からの推薦特別入試を行ったが学力テストを実施し、9人を不合格とし61人が入学した。四年制大学は1951年にすでに入学者数が入学定員を上回っていたが、短期大学はこの年に初めて入学定員より入学者数が上回った（入学定員26,581人に対し29,513人であり、昼間部では17,931人対して18,958人、夜間部では8,650人に対して10,555人）。

1953年

3月9日（月曜）文科国文専攻が国語（9：20～10：50）、英語（11：10～12：10）、文科英文専攻が英語（13：40～15：10）、国語（15：30～16：30）、というように昨年より10分繰り下げて専攻別の出題を行った。10日（火曜）は午前に進学適正検査（9：30～11：00）を行い、午後に社会または一般家庭（1：00～2：00）を行い、11日（水曜）には家政科のみ数学（9：20～10：50）、国語（11：10～12：00）を行い、理科に代えて数学を入試科目に選んだ。12日（木曜）には進学適性検査を社会・数学・国語に関して9：00から12：00の間に行った。総受験者数は昨年の大幅増の反動か81%と減ったが入学定員の約5倍であり、併願を除いた実受験者数は1200人もあり高等部からの60人入学もあって、優秀な学生を確保できているといえよう。高等部は女子生徒数が234人、男子生徒数が150人であって、学院大学へは124人が推薦で入学していた。この年の学院大学一部の志願者数は2629人であって入学者数は943人で倍率は2.79倍となり、短期大学の3.45倍のほうが高かったのがあった。高等部卒業者のうち、家庭や予備校などへが81人、就職が30人、料理学校などの各種学校へも24人が進んだ年であった。

1954年

3月8日（月曜）に午前が文科国文専攻、午後が文科英文専攻の、国語と英語の学力試験を行った。9日（火曜）には家政科の学力試験（国語、数学、社会または家庭）を午前に行い、午後に短大独自の進学適性検査を行った。科目は社会で一般社会、世界史、人文地理、時事問題の中の1科目、数学は一般数学、幾何、解析Ⅰであった。文科国文専攻は入学定員を100人へと増員した。総受験生数も増えて昨年の1.4倍となり2000人を上回った。さらに高等部からの、調査書・学力テスト・面接試験・身体検査を受けて合格した57人の

入学もあった。

1955年

開学以来6回目の入学試験である。3月7日（月曜）社会または家庭（9：20～10：10）、数学（10：40～12：10）、国語Ⅰ（13：05～14：05）、国分専攻のみ国語Ⅱ（14：55～16：25）。8日（火曜）英語Ⅰ（9：10～10：10）、英文専攻のみ英語Ⅱ（11：00～12：30）を行い、全体で社会（一般社会、日本史、世界史、人文地理のうち1科目選択）、数学（一般数学、解析Ⅰ、幾何のうち1科目選択）も課した。進学適性検査は廃止された。一般入試受験者数は実数で841人としか分からず一昨年の1200人と比べても30%減であり、減、増、減と隔年で増減を繰り返している。

1956年

3月8日（木曜）に国語（10：00～11：30）、文科のみ英語（13：00～14：30）を行った。9日（金曜）には、文科は社会（一般社会、日本史、世界史、人文地理）、家政は数学（一般数学、解析Ⅰ、幾何）と英語（10単位履修程度）を課した。文科英文専攻は入学定員を150名から200名に増員し、一般入試受験者実数は昨年の841人から1260人へと大きく増え、隔年ごとの増減がまたも繰り返された。資料によれば入学者数は国文専攻、英文専攻とも入学定員を下回っているが、4月の在校生数は入学定員を上回っているため、学生確保はなされていた。

1957年

3月8日（金曜）、9日（土曜）に昨年と同じように行われた。ただし、家政科の数学は一般数学がなくなり、幾何か解析Ⅰの中からの1科目選択に代わっている。一般入試の総受験者数は2009人であって54年とほぼ同数であり、その前の53年は総受験者数が1467人、実受験者が1200人であったことから、57年の実受験者数は1200人をかなり超えていると考えられ、隔年ごとの増減ではなく、56年より受験者数は増えていることがうかがえた。また、この年の高等部よりの推薦入学は37人であったが、生徒数419人の内学院大学へ163人、本学40人で53年と同様に半数しか青山学院へ進んでいなかった。卒業女子生徒273人の進路を見ると、学院大学へ進んだものが87人、推薦入学も合わせて本学への入学は40人、他大学へ78人、家庭や各種学校へは34人、就職も34人いて25%は進学以外を選んでしたが、男子生徒では6%に過ぎなかった。

1958年

2月28日（金曜）と3月1日（土曜）の2日間で一般入試が行われた、内容は、文科は国語、英語、社会（日本史、世界史、人文地理のうち1科目選択）、家政は国語、英語、数学（解析Ⅰまたは幾何を選択）であった。一般入試総受験者数は2057名で昨年と大きな違いはな

かったが、増えてはいた。キリスト教信仰を持っている学生の方が少ないことから、キリスト教学校同盟加盟高等学校のうち3年間受験者を送ってきている26校へキリスト教信者である受験生の推薦依頼を行い、身体検査を含めた書類選考による11人合格決定を始めた。一方、高等部推薦入試では従来通りに、他学科併願を認めるが、国文専攻では国語、英語、日本史、英文専攻では英語、国語、世界史、家政科では国語、英語、解析Ⅰの入試を課し、さらに、面接、身体検査、調査書も交えて選抜を行っており、73人の入学を認めている。

1959年

2月27日（金曜）に国語Ⅰ（9：40～10：30）英語Ⅰ（11：00～12：00）、社会（文科のみ13：40～14：30）、2月28日（土曜）は国語Ⅱ（国文のみ9：00～10：00）、英語Ⅱ（英文のみ11：10～12：40）、数学（統計および空間図形を除く）・旧制度の受験者は解析Ⅰ（家政のみ14：00～15：30）の2日間で一般入試が行われた、社会は、日本史、世界史、人文地理のうち1科目選択であった。合格発表は3月3日9時、入学手続きは12、13日、14日に補欠入学者通知を行い19日に手続きを済ませ、21日には卒業式を行った。一般入試受験者数は併願を含めた総受験者数総数が2278人であり、前年の2057人に比べて大幅に増加したものと考えられる。56年から4年間増え続けている。

1960年

2月29日（月曜）と3月1日（火曜）の2日間で一般入試が行われた。国文は国語、英語、日本史、英文は国語、英語、世界史、家政は国語、英語、数学Ⅰ（代数）と、科目の整理がなされた。一般入試受験者数は併願を含めた総受験者数が2667人であり、前年より約400人増であった。増減の繰り返しから5年連続受験者増へと変わってきた。特別入試では、高等部からの進学が39人と減り、60年代ではおおよそ30人台に終始し、同盟校からの推薦入試も16人で60年代を通してほとんど10人台であって、入学者の中では少数なままで60年代は推移した。

1961年

国分専攻が国語（甲）、（乙）、英語、社会（日本史、世界史から1科目選択）、英文専攻が国語（甲）、英語、社会（日本史、世界史から1科目選択）、家政が国語（甲）、英語、数学（C）を課した。一般受験総受験者数は2767人で昨年よりも100人増であって、6年続いて受験者が増えていた。

1962年

入学定員50人の児童教育科が新しく開設され、文科の国文専攻と英文専攻は国文科と英文科に分かれたので、家政科と合わせて4学科体制、450人の入学定員の大学となった。一

般入試は3月2日（金曜）と3日（土曜）に行われた。国文と英文は、国語、英語、社会（日本史、世界史から1科目選択）、児童科はこれに面接を加えた。家政科が国語、英語、理科（生物、化学から1科目選択）を課した。家政科は、国語、英語以外に、社会科であったり数学であったりと、3科目めの受験科目設定に苦勞していることがうかがえる。総志願者数は2867人と7年続いて増加した。また、昨年もそうだが、入学定員に比べて入学者数が1.5倍を超えていて、多くの学生を受け入れていた。

1963年

2月25日（月曜）と26日（火曜）に一般入試が行われた。国文科が国語（甲・乙）、英語、社会（日本史、世界史から1科目選択）、英文科が国語（甲）、英語、社会（日本史、世界史から1科目選択）、家政科が国語（甲）、英語、理科（生物、化学から1科目選択）、児童教育科は国語（甲）、英語、社会（日本史、世界史から1科目選択）、を課した。一般受験者総数は3793人と900人も増えていて8年間続いていた。実数は2412人であって一人で1.6学科を受験していることになる。特別入試に外国人学生入試も始めたが、児童教育科に1人入学しただけであった。

1964年

3月2日（月曜）と3日（火曜）に一般入試が行われた。国文科が国語（甲・乙）、英語、社会（日本史、世界史から1科目選択）、英文科が国語（甲）、英語、社会（日本史、世界史から1科目選択）、家政科が国語（甲）、英語、理科（生物、化学から1科目選択）、児童教育科は国語（甲）、英語、社会（日本史、世界史から1科目選択）、を課した。一般受験者総数は3301人と昨年の3793人からは減っていて、8年間の増加傾向が止まった。外国人学生入試は、英文科と児童教育科に各1人入学しただけであった。

1965年

2月22日（月曜）、と23日（火曜）に一般入試が行われた。国文科が国語（甲・乙）、英語、社会（日本史、世界史から1科目選択）、英文科が国語（甲）、英語、社会（日本史、世界史から1科目選択）、家政科が国語（甲）、英語、理科（生物、化学から1科目選択）、児童教育科は国語（甲）、英語、社会（日本史、世界史から1科目選択）、を課した。一般受験者総数は3905人と一昨年を超えていて、増、減、増、減のパターンになったといえよう。

1966年

家政科は入学定員100人から100人の家政科Aと50人家政科Bへと増員したが入試は同一で入試後に振り分けた。Aコースは、生活の諸局面を分析的に捉えてそれらの科学的理解を深めるものであり、Bコースは、生活を社会と家庭の構成面を理解し創造的に設計する生活デザインを主旨とするものであって、Aは実験が、Bでは実習が多く開講された。入

学定員80人の教養科も開設し5学科体制が整った。これから1989年の芸術学科開設まで5学科体制が32年続くことになった。2月23（水曜）、と24日（木曜）に一般入試が行われた。国文科、英文科、児童科、教養科とも国語は現代国語・古典乙Ⅰ、社会が日本史・世界史Bのうち1科目、外国語は英語Bを課した。家政科は社会に代わり理科（化学B、生物、数学Ⅰのうち1科目選択）とした。この年は戦後のベビーブームによる出生数が最大の年であることもあり、受験者総数は5783人と昨年に続き大幅増で64年を除けば11年続けて増加したことになり、初めて4000人台も超えて5000人台へ届いた。

1967年

家政科は昨年から始めたAコースとBコースを、Ⅰ系列とⅡ系列という名称に変えて総入学定員を150人から200人に増員した。2月23日（木曜）と24日（金曜）に一般入試が行われた。国文科、英文科、児童科、教養科とも昨年と変わらず、国語は現代国語・古典乙Ⅰ、社会が日本史・世界史Bのうち1科目、外国語は英語Bを課した。教養科はさらに作文、児童科は面接も課した。家政科も昨年と同じく社会に代わり理科（化学B、生物、数学Ⅰのうち1科目選択）とした。受験者総数は4693人であって昨年より900人も減ったが、1昨年の3905人に比べれば大幅に増えたことになる。

1968年

国文科が入学定員を100人から150人に、児童教育科が50人から100人へ、教養科が80人から100人へと、それぞれ増員した。家政科はⅠ系列とⅡ系列という名称をⅠコースとⅡコースへ改めた。一般入試は2月22日（金曜）に行われ受験科目は66年から変更もなく行っているが、国文科の国語、英文科の英語は100点満点から200点満点へと倍の評価を行い現在でも行われている。総受験者数は6717人で実受験者数は4859人と今までで最も受験者数の多い入試であった。その中で教養科や英文科は入学定員の10倍を超える受験者があったが、家政科は4.6倍と学科間の差があった。

1969年

各学科の名称を〇〇科から〇〇学科へと変更した。一般入試は2月20日（木曜）に66年からと同じ科目で行われた。総受験者数は7370人であり実受験者数は5447人と、昨年に続いて増加した。

1970年

一般入試は2月19日に行われた。社会に日本史・世界史Bに加えて倫理社会も選択科目の一つに採用されたが、家政学科は従来通りで行った。一般入試の総受験者数は5268人、実受験者数は4298人と昨年、一昨年よりは減少した。

1971年から1980年まで

大きな変化は無く、一般入試は2月20日前後1週間のあいだの1日をもって行われた。試験科目は、75年からすべての学科共通で国語（現代国語・古典乙Ⅰ）、外国語（英語B）、社会・数学（日本史・世界史B、数学Ⅰから1科目選択）であり、国語、英語は90分、社会・数学は70分の試験時間で、行われた。一般入試の総受験者数は6千人台から7千、8千と増え続き、80年には1万人台に至った。76年に入学定員増を行い、5学科の内国文学科を50人増の200人、英文学科を100人増の300人、家政学科を50人増の200人（Ⅰ、Ⅱコースそれぞれ100人ずつに分ける）、教養学科を50人増の150人と、合計250人増とした。特別入試は、高等部、同盟校、外国人学生に対して行っていたが、高等部からの推薦入学者が減る一方で同盟校からの推薦入学者が77年より増えて56人、70人となり80年では76人であって、50年代の高等部よりの進学者に取って代わった。1977年の『短期大学教育』によれば⁶⁾、76年度の私立短期大学調査対象425校のうち回答217校では募集人員に対する推薦入学者の割合で最も校数の多い割合は41～50%で32校であって、ついで61～70%であることに比べれば、本学の推薦入学者は特別入試全体の入学者数でみても全国でみれば少ないものであった。また、高等部卒業生の学院大学への進学が増えるなか、表1-1に見えるように女子学生は短期大学生が四年制大学生より多い時代であるが、1976年の本学全学生アンケート調査⁷⁾で回答率74%の結果をみても、入学前は四年制大学を希望していたものが52.7%と最も多く、次いで短期大学の32.6%、どちらでもよいが14.2%とあって、本学を第一志望として入学した学生では約43%ともあり、とにかく四年制を志望していた学生が半数以上を占めていたことがわかる。また、いわゆる浪人生活を送った学生が二年生では9%、一年生では14%と多いことも、本学学生や高等部生徒に四年制志望が多いことがわかる。受験生の出身地からみると、東京、神奈川、千葉、埼玉の順で合計が57.7%であって、静岡、長野、栃木、茨城、群馬と続いて全国すべてから受験生を集めており、この傾向は195年の開学より今に至るまで変わっていない。

1982年以降

81年からの80年代は、一般受験日を2月12日から15日の間の一日で行っていて、70年代より1週間早くなった。受験科目は、国語、英語、社会・数学（日本史・世界史・数学Ⅰの1科目選択）と、60年代と変わっていなかった。変わってきたのは受験生数の変化や特別入試の多様化であり、受験者層の変化が起こってきた年代であったといえる年代だった。一般入試総受験者数は87年まで1万人から1万2千人程であって、実数で見ても1979年の8070人次いで86年の7530人とかなりの受験生を集めていたが、87年からは総受験者数は9480、6956、7828人と減少傾向に向かっていった。当時は第二次のベビーブームであって、表1-1のように91年に向かって18歳人口が増えてきていて短期大学受験者数も増加していたのに減ったのである。これは、70年代に見られる本学入学者の四年制志向の強さにあいまって、就職の機会均等をめざし男女雇用機会均等法が1985年に成ったように、女性の職

業観が変わり始めたことを受けて、本学受験生が短期大学であってもからやはり第一志望の四年制をと変わっていったといえるのではないであろうか。学内の将来計画委員会も87年3月に島崎学長に提出した第3回報告書の中、1.危機感の所見において、「本学の教養教育の方針を貫いても、将来入学者数が定員割れすることがないと思われるが、学生の学力低下が予想される。また、男女雇用機会均等法の影響の浸透力は、教養志向の女子学生を4年制へ向かわせ、この面からの学力低下も予想される。いずれにしろ本学は、現状のままでは地盤沈下を免れそうになく、将来に向けての打開策を考えねばならない。」と報告している。高等部からの推薦入学者も80年代前半は毎年40人以上あったものが、後半は10人台にまで減っていたことも、同じ理由であろう。この高等部からの減少の影響もあって、86年には青山らしい教育をより行いやすくするためにもあって、青山スピリッツを学んだ本学卒業生の子女の受入れ機会を増やす見地から、卒業生子女入試を11月に行うことを始めたが、学生数確保の立場からではなく少人数のみ受け入れてゆく方針であったので、一般入試に影響を及ぼすことはなかった。さらに、この卒業生子女入試を行うより前に、83年には国外にバックグラウンドをもつ海外帰国者に対してと一般入試に頼らない優秀な学生確保もあって指定校推薦入学も始めた。海外帰国者は少数であるため学生数確保には貢献することはなかったが、指定校推薦入学は表2-1にあるように学生数確保と成績優秀な学生を育てるための大きな支えとなった。

1990年代前半

家政学科の入学者定員を200人から160人へ減らして入学定員40人の芸術学科を開設した90年の一般入試受験者数は12173人と多く、89年からの18歳人口の増加によってか、91,92年も1万人を超えていたが、93年からは8千、7千、6千人台と減少し続けた。18歳の人口増もあって、全短期大学受験者総数が92年に最大となりその後徐々に減ってくるのと傾向は同じであったが、その減り方は本学において急激であった。この間、高等部推薦入学者数も一桁にまで減り、80人以上いた同盟校推薦入学者も減少し95年には41人になってしまった。指定校推薦入学者も、90年の82名から95年には66人へと減った。芸術学科の入学試験は他学科の入試と同じ内容で行う以外に、その合格者に対して数日後に実技試験と面接を行う二次試験を課すものであった。この二次試験方式は、その後一般入試の最後の科目である社会・数学に代えて、受験者の持参作品をもとに面接を行う一日で済む方式に代わっていった。

1990年代後半

95年に一般入試総受験者数が6千人台へ減ったが、98年を除く99年まではすべて6千人台のままであった。しかし、実数が1%台の受験時欠席者を除いて3500人から4000人程であったは、特別入試で120人を確保していたとしても、入学定員950人を考えると入学者数の倍ほどの人数で合格者を出さなければならない状態のなかでは、一般入試の合格率が50%程

度にのぼってしまうことになる。一般入学試験日は2月中旬に行っていたが、96年から2月始めへと時期を早めたけれど、他校も追従し受験生数への大きな効果はなかった。高等部推薦入学者数は、99年には3人、2000年には1人となり、同盟校推薦数も30人台へと減った中で、指定校を見直し校数も増やすことで確実によい学生を確保する方策を96年入試から始めた。その内容は95年5月の教授会で承認されたものであるが、学力の平均値が学年の上位3割以内を3割程度と幅を広げ、現指定校64校には各学科1名ずつ（最大5名まで）とし、新たに20校を国文、英文、家政学科共通として各学科1名ずつとし、さらに30校の指定校を国文、家政学科共通として各学科1名ずつとし、これら新たな指定校は、一般的な高校の偏差値が高い高校で本学に入学者がいることを基準に、選び出した。その結果、95年に66人であった指定校推薦入試入学者数は96年に199人へと増加し、この流れが定着した。しかし一般入試実受験者数は、98年4337人、99年3700人と減ってきていた。

2000年代前半

00年の一般入試実受験者数は2952人と3000人を下回り、この後も毎年減り続けて、04年には1745人になった。これを受けて特別入試すべてを見直し、現状に合わせて出願資格を広め、また、自己推薦や社会人入試そしてセンター入試を新たに導入するなど、新しい入試制度を導入した時代であった。00年の指定校推薦入試では、成績上位3割程度から調査書の評定平均値が3.7以上とし、新たに計67校を指定校として更に芸術学科も指定校と同盟校推薦校から計8校に推薦依頼を行った。この後これら指定校は数年ごとに推薦が途絶えた高等学校に対して推薦依頼を取りやめ、入学者数や受験者数と高校のいわゆる偏差値から新たな高校を指定校とし、その際指定する評定平均値も学科によっては3.5というように下げることが行われた。これらの結果として、指定校推薦で入学する学生数は289人に増え、04年には444人にまでなり、入学定員の47%になった。また、01年から新たに自己推薦制度を始めた。国文学科は出願資格として国語の評定平均値が4.0以上で全体の平均値が3.5以上の者とし、募集人員は30人で、42人の志願者に対して第一次が書類選考、第二次が小論文及び面接にて合否判定をおこない、33人の合格（入学者）を得た。芸術学科は出願資格が美術の評定平均値が4.0以上で全体の平均値が3.5以上の者として募集人数が10人で8人の応募者に対して第一次が書類選考、第二次が小論文及び作品持参を伴う面接にて合否判定をおこない、8人の合格（入学者）者を得た。この後、自己推薦制度は他学科も参加し、04年は5学科がそろい190人の入学者がいた。また、推薦基準を段階的に下げ、受験しやすい形に変わっていった。さらに、04年からはセンター入試も取り入れた。学生調査でセンター入試も受けていた学生のほうが入試成績が良いことから、センター入試の成績のみで合否を決定する形で、一般入試入学合格発表日より10日ほど送らせて合否発表を行ったが、翌年からは同日発表に変更された。始めは教養と芸術学科は参加しない中で、4学科はそれぞれ指定した教科・科目の中から1科目は必須、残る1科目は選択とした。芸術学科は翌年度から、教養学科はその翌年からスタートしたが、もともと募集定員も10

人前後であり、多数の優秀な入学者を得る入試ではなかった。04年度からは、社会人入試も始めた。社会人入学試験（社会人）は、一旦学校を卒業し実社会にでた後に再度学問の道に戻って学ぼうとする方を受け入れることで、当人のみならず他の学生や学校全体に良い影響を与えるであろうという考えをもって、国文学科と教養学科が2004年に始めた制度であり、面接と小論文にて合否を決定する方法をとった。04年は合格者がなく、翌年に児童教育学科が加わって初めて1人の合格者を出し、その翌年は国文学科に1人、翌年さらに3人とふえてきた。

2000年代後半から2011年まで

一般入試受験者数は、さらに減少していった。教養教育を大きな柱としている本学では幅広く学んできた受験生を受け入れたいため2科目とデッサンの芸術学科以外は3科目入試を行ってきたが、短期大学の多くは一般入試科目を2科目か1科目としており短期大学志望の受験生の多くは受験科目を絞って勉強していることから、この受験生層にも合うように全学科で2科目入試を3科目入試の翌日に行うことにした。科目は国語（国語総合）と外国語（英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング、ライティング）である。3科目入試と同様に、2学科併願を認めた。受験者数は3科目入試が実数で624人、2科目は419人と3科目のほうが1.5倍と多かった。ダブル受験者もいるので評価は難しいが、入学手続き率は63%と59%と大きな差はなかったので、受験者層に大きな違いはないのではないと、推察した。さらに、3月に入ってまだ進学先が決まっていない受験生を受け入れる体制を整え一般入学試験後期（後期入試）として2010年3月1日に、国文学科は国語総合と面接、他の5学科は小論文と面接で評価する入学試験も始めた。募集人数が約3人の芸術学科以外は約5人であって、併願は認めず、合格発表も試験日の4日後という短期での入試であったが、受験者数は169人で合格者26人の69%が入学した。自己推薦入試での入学者数は07年までは160人前後であったが、11月に合否を決めておきたい受験生の更なる増加もあってか、08年には211人と増加しその後も11年まで190人を超えており、指定校推薦に次いで3科目入試や2科目入試と同じような数にまで増えていた。

2012年以降

2011年度までの6学科体制が今の18歳受験者層に合わないという判断もあって大幅な改組を行い、12年度には、従来からの入学定員100人で3年制の子ども学科と日本専攻、国際専攻、人間社会専攻の3専攻をもつ2年制で入学定員がそれぞれ130人、190人、160人の現代教養学科の2学科になった。入学試験制度は大きく変わることもなく続けられたが、その中で、大学入試センター試験利用入学試験（センター入試）に新たにセンター試験後期を加えた。出願期間は2月末で、現代教養学科は教科・科目は2月のセンター試験と同じでありセンター試験の結果のみで合否を決定し、子ども学科は教科・科目は2月のセンター試験の3科目から国語・外国語のみとして、さらに3月1日に個々の受験者に対して面接試

験を行って合否を決定し、両学科とも一般入試後期と同じ4日に合格発表を行った。募集人数は各専攻それぞれ5人、総計20人であったが、受験者は延べ125人、合格者は33人、入学者は15人となった。この入試を含め、一般入試が2科目型、3科目型、後期入試、センター入試、センター入試後期、それに特別入試として、同盟校・指定校入試、自己推薦入試、高等部推薦入試、外国人留学生、帰国者、卒業生子女、キリスト者、短期大学士、社会人入試と、計16種の入試を行い、受験生それぞれの、受験時期、受験勉強の内容、学力以外の本人の特色などに合わせての、きめ細かい入試を行ってゆくようになっている。

3. 特別入試の概要

ここでいう特別入試とは、すべてに開いている一般入試とセンター入試を除いたその他の入試をさす。すべて秋に1回のみしか行われず、合格者はほとんど全員が入学手続きを行っている。

内部進学入学試験

内部進学入学試験（高等部）は、1950年の開学時より今に至っている。

対象は青山学院高等部3年次に在学し女子短期大学入学を第一志望とする女子生徒であって、高等部より推薦を受けたものである。高等部も1950年に開校したので、53年入試までの3年間は旧制度の女子高等部からの卒業生を受け入れ、50年だけは女子専門学校と別科、専修科からの学生も総計100人を受け入れていた。女子高等部からの52年の推薦者は70人であったがテストを行い61人の入学を許可している。

翌年53年の高等部からの初めての推薦者68人に対しては、60人に入学を認めた。翌年の資料によると、調査書と学力テストと面接試験と身体検査によっていた。学力テストは、始めのうち毎年のように変わっていたが、国文が国語、英語、日本史、英文は英語、国語、世界史、家政は解析Ⅰ、国語、英語（10単位履修程度）のテストを54年に行っており、他学科併願も認めていた。これらの試験は順次減ってきて身体検査と学力テストが先になくなり、次いで面接の代わりに志望動機を提出させ内申書とあわせることで各学科が合否案を作り、全学の合否資料作成委員会にかけて教授会原案を作成するように簡素化された。その間に61年からは特に問題が無い場合は進学志望者全員を受け入れるようになった。50年代は平均して50人以上を受け入れており、高等部の女子生徒数が約250人ほどであって就職する生徒もいる中で 60年代前半では平均35人程、後半は40人を超え、70年代では25人程、80年代前半はまた増えて40人を再び超えたが、後半からの10年間で10人台、90年代後半からは一桁となって、2000年に入ると4人が最大であって一人もいないという年が2回もあり、他の四年制大学へ進学する以外はすべて学院大学へ進学するようになった。

同盟校推薦入学試験

同盟校推薦入学試験（同盟校）における同盟校とはプロテスタント系のキリスト教学校102法人によって組織されているキリスト教学校同盟に加盟している高等学校のことであり、各校に本学入学を第一志望とする3年生女子生徒を推薦依頼する入学試験が1958年に始って現在にまで至っている。学生のキリスト教信者数減少で同盟校より3年間志願者を送ってきている26校へ信者を推薦依頼し17人の推薦を受け、身体検査書などの書類で可否決定を行い11人を合格とした。翌年は15人の応募に対して12人を合格としている。60年にはキリスト教信者の推薦入学から特別選考入学へと名称変更し、信者でなくとも信者に準じるものにまで推薦幅を広げ、16人全員を合格とした。この後は推薦者全員を通常は受け入れるようになった。68年まではだいたい14から15人程であったが69年は5人に減ったので、70年の募集は、過去3年に入試を受けて合格1名以上から1名、合格者3名以上は推薦2名、女子学院、捜真、女子聖学院、フェリスは3名と校数や推薦可能人数を増やした結果、15人の推薦を受けた。この後74年までは更に減ったが、75年からは対象校を当時の同盟加盟校約60校すべてにまで拡大して過去3カ年で入試合格者のいる高校で1名、合格者3名以上なら推薦2名、女子学院、捜真、女子聖学院、フェリスなら3名とした。翌76年には、5カ年以内で入試を受けて合格している高校の3月卒業見込み者で学力上位1割以内（3カ年で合格者3名以上は上位2割以内で信者もしくは求道者）とし、77年には新たに面接を加え、カトリックの信者・求道者も選考の対象とした。77年に56人、78年に70人と増え、92年までは70人を超えていた。82年には上位2割の中から2人推薦を依頼している高校に対し、家政学科希望の生徒であれば3人目でもよいと幅を広げたり、上位1割で1名推薦依頼から上位2割で推薦2人へと依頼内容を変えたりするなどの措置をとっていた。また、対象校そのものも85年には90校へと、10年で30校も大幅に増加していた。この後も対象校への個別の依頼の内容を受験者数、本学在校中の成績などを根拠に変えていったが93年からは52,47,43、35人と減少し続け、07年以降は10人台となった。

外国人留学生入学試験

外国人留学生入学試験（外国人）は1963年に4学科すべてで始めたが、初年度受け入れは児童教育学科の1人だけであり受け入れの無い年の方が多かった。76年には通常的一般入試を受けたものの中からその成績を考慮し特別聴講生として受け入れ、前期の成績をみて後期から通常の学生として受け入れる制度に変えたが、1984年に再度、秋に行う入試の結果のみで正規の学生として受け入れる制度として再スタートした。この年度は38人の受験者があり、24名が合格し入学した。その後94年までは20人以上の入学が多かったが、95、96、97年は12、11、12人と減り、98年は1人、99年は5人とさらに減って、2000年に入ると0から3人になった。

指定校推薦入学試験

指定校推薦入学試験（指定校）は、1982年7月に教授会において本学に多数の学生を入学させている高校を対象とし、33校で各校2人の推薦枠の承認と募集要項が承認され、83年度から現在に至るまで行われており、成績調査を行うと他の入試を受けて入学したものに比べてつねに成績がよいことから、一般入試に頼らない優秀な学生確保の一つと考えられている。84年には本学を受験するものは多いが入学者の少ない高校9校へも、推薦枠1名で推薦依頼を行った。翌85年には始めの33校のうち7校に、家政学科志望者のある場合更に1人増を認めた。87年には過去の入学者の成績調査を基に成績上位3割以内の人数の多い高校や比率の多い高校を選び、5学科対象校推薦2名を27校、教養を除く4学科対象推薦1名を14校とし、そのうちの10校には家政学科志望者のある場合更に1人増を認め、上記9校とあわせて50校を指定校とした。更にこの9校卒業の学生の成績を89年に調査し、主に地域性の観点から地方校12校推薦1人で9校に代えて指定校53校推薦人数90人と増えた。しかし、この後も指定校生徒の四年制大学志望の高まりを受け、入学者選抜方法検討委員会において成績上位でなおかつ短期大学志望の生徒が存在するしかも高校としても上位に位置する高校を指定校として指定し直すことを毎年のように行っている。

高等学校長への推薦依頼をおこなうこともあり、始まった83年から受験者は面接と小論文を課しても原則として受け入れることを行ってきた。その受入れ人数は始まりから95年までの13年間は平均で75人ほどであったが、1996年からは180人を超え、2000年に入ると300人、400人と大幅に増加した。2011年からは317人、233人、そして2学科へと改組転換を行って学生数が6割ほどに減った12年からは196人、201人となった。

海外帰国者入学試験

海外帰国者入学試験（帰国者）は、1977年に始まる特別聴講生制度の中で受け入れた帰国者を、83年に5学科すべてこの独立した制度で受け入れることで始まった。受験者は英文学科のみ7人であって、英文学科英文学専攻に5人英語学専攻に1人名の合格発表があった。翌年には国文学科以外の4学科すべてに合計24人を受け入れたが、次の年は英語学専攻に5人、児童教育学科に2人というように、人数の変動が大きい入試であった。87年には28人を受け入れたが翌年は8人となり、この後90年代前半は二けた台が多かったが、97年からはすべて一けたであって2000年以降は5人以下となった。

卒業生子女入学試験

卒業生子女入学試験（卒子女）は1986年に5学科すべてで始めた入試である。学業成績が優秀であってもキリスト教や青山学院の学風に関わったことがない学生が多くなり、教育理念に沿った教育を深化させるために、卒業生の子女を受け入れる制度を作ったのであった。学力を担保するために、学科共通の国語、英語の入試を課し最低基準を満たしていない受験生は不合格とした。さらに各学科ごとの小論文や国文の国語、英文の英語など

学科独自のペーパーテストや児童教育の自己表現、面接に加えて、内申書の評価を行い、若干名の募集ではあるが各学科専攻で合格者5名までという内規のもとで行われた。

初年度は73人の受験者から、国文5人、英語学5人、家政Ⅰコース1人、Ⅱコース2人、児童教育学科3人、教育学科4人、計20人を受け入れた。89年に芸術学科が開設されたが、入学定員が40人のため卒子女受け入れは2005年からになった。97年まではおおよそ受験人数が50人を上回り20人以上を受け入れていたが、98年は受験者数が30人で合格者17人、翌年は23人で17人合格と減り、2000年以降は10人前後の入学者数に留まってしまった。

キリスト者入学試験

キリスト者入学試験（キリスト者）は、1996年から始めた特別入試である。キリスト教信仰をもたない学生が多いことは卒子女入試導入にもつながった理由のひとつであるが、キリスト教信仰にもとづく幼稚園や保育園などの児童施設からのキリスト教信仰をもつ卒業生を送ってほしいという要望に児童教育学科が答える為には、そのような学生を受け入れる必要があり、児童教育学科独自の制度として始まった。

初年度は5人の応募があり、3人の合格発表を経て、この3人が入学した。2011年までの6学科時代に最大5人、合格者0人の年も2回あったが、平均2人ほどで推移し、施設の要望に答えることができた。2012年からの2学科体制のもとでは両学科ともに若干名の募集を行い、12年度は計3人、13年度は計10人を受け入れた。

再入学者入学試験（再入学）、短期大学士入学試験（短期大学士）、短期大学士・学士入学試験

再入学者入学試験（再入学）は、本学の学科を卒業した後に別の学科に再び入学する際に、一般入試を受けずに面接をおもにした入試を行う特別入試である。2000年に短期大学士入学試験（短期大学士）と名称を改め他短期大学卒業生へも門戸を広げたが、他学科を卒業し更に子ども学科に再入学する学生が大部分を占めている。2013年には名称を短期大学士・学士入学試験と改め、四年制大学卒業生へも受験資格を広げて、現在に至っている。

自己推薦入学試験

2001年に国文学科と芸術学科で始めた特別入試である。同盟校や指定校以外の高等学校の3年生や卒業生を対象にペーパーテストの結果重視の試験に代えて、各学科が内申書の評定平均値で一定の数値以上の基準を定め、面接と小論文中心の試験を行って合否を決定するものである。初年度は国文学科に受験者42人で合格者33人、入学定員40人の芸術学科も8人の受験者から8人の合格者を出した。翌年は家政学科が加わり25人の合格者を得、その翌年には英文学科英文学専攻がさらに加わり40人の合格者を出し、03年には教養学科が加わって21人の合格者を出すなど、2月に行われる一般入試を待たずに入学先を決めたいという受験生の要望にも合う制度となった。児童教育学科は、6年に3年制の子ども学科と

改組した年から加わったが、要求に合った学生を確保出来ているとする英文学科英語学専攻は加わらなかった。

社会人入学試験

社会人入学試験（社会人）は、一旦学校を卒業し実社会にでた後に再度学問の道に戻って学ぼうとする方を受け入れることで、当人のみならず他の学生や学校全体に良い影響を与えるであろうという考えをもって、国文学科と教養学科が2004年に始めた制度である。最終学校の卒業証は必要だが、それ以外は面接と小論文にて合否を決定する方法をとった。翌年に児童教育学科が加わり、08年には残りの3学科もこの制度に加わり、国文に1人、家政に2人が入学した。これまでに卒業式の学科総代に選ばれたものもあり、その後2学科への改組転換もあったが5名の入学者を得て、良い学生を得るという結果を出している。

表1-1 短期大学と四年制大学の学校数、志願者数、入学者数

	短期大学	①	②	③	④	四年制大学	⑤	⑥	⑦	⑧	④/④+⑧	
年	学校数	志願者数	入学者数	女性受験者数	女性入学者数	学校数	志願者数	入学者数	女性受験者数	女性入学者数		18歳人口
1950	149	11,843	8,333	6,790	4,881	201	197,421	77,181	17,233	8,584	0.36	171万人
1951	180	35,422	21,802	16,981	10,098	201	340,829	110,255	31,303	13,863	0.42	172万人
1955	264	73,255	37,544	44,977	21,398	228	658,343	136,467	69,745	20,246	0.55	177万人
1960	280	87,160	42,318	63,990	29,625	245	800,720	162,922	82,096	24,508	0.55	200万人
1965	369	171,135	80,563	141,524	68,763	317	1,203,337	249,917	168,393	44,282	0.61	195万人
1970	479	252,699	126,659	214,151	106,952	328	1,943,207	333,037	282,166	62,093	0.63	195万人
1975	513	379,166	174,930	343,954	154,110	402	2,756,699	423,942	526,435	97,111	0.61	156万人
1980	517	474,123	178,215	442,654	161,950	446	2,658,633	412,437	496,125	95,079	0.63	158万人
1985	543	480,831	173,503	445,111	157,826	460	2,729,799	411,993	503,450	104,033	0.60	156万人
1986	548	613,144	206,083	570,777	189,483	465	2,918,628	436,896	550,959	113,119	0.63	185万人
1987	561	658,926	215,088	613,035	197,590	474	3,541,188	465,503	694,876	124,514	0.61	188万人
1988	571	679,885	218,036	632,955	200,364	490	3,766,338	472,965	773,170	132,008	0.62	188万人
1989	584	750,636	225,364	698,529	208,350	499	4,119,609	476,786	854,880	138,722	0.60	193万人
1990	593	838,685	235,195	782,476	217,474	507	4,639,980	492,340	1,004,160	148,646	0.59	201万人
1991	592	909,850	249,552	845,137	230,761	514	4,937,867	521,899	160,665	230,761	0.59	204万人
1992	591	932,160	254,676	866,321	235,516	523	5,062,862	541,604	172,608	235,516	0.58	205万人
1993	595	886,225	254,953	821,431	235,811	534	4,962,863	559,473	183,522	235,811	0.56	198万人
1994	593	791,752	244,895	729,311	225,955	552	4,785,380	560,815	190,709	225,955	0.52	198万人
1995	596	696,384	232,741	637,218	212,229	565	4,627,854	568,576	1,307,065	198,485	0.52	177万人
2000	572	284,092	141,491	256,388	200,357	649	3,451,272	599,655	1,268,570	232,501	0.35	151万人
2005	488	190,904	99,431	168,478	127,099	726	3,589,251	603,760	1,388,642	245,525	0.29	137万人
2010	395	115,598	72,049	103,047	63,924	778	3,751,050	619,119	1,502,180	268,182	0.19	122万人
2013	359	106,354	64,653	94,374	57,488	782	3,970,026	608,247	1,644,232	274,682	0.20	123万人

表2-1 各年の入試結果

1950年

一般入試	入学定員	受験者	合格者	入学者	在校生1年	2年後の卒業生数
文科国文	50	59	53		68	61
文科英文	100	220	130		168	139
家政科	100	168	94		121	107
特別入試	女専より推薦		女子高等部	別科	専修科	
文科国文	10		10	8	1	
文科英文	17		24	23	0	
家政科	25		14	10	10	

1951年

一般入試	入学定員	受験者	合格者	入学者	在校生1年	2年後の卒業生
文科国文	50	138	76		81	71
文科英文	150	546	172		182	166
家政科	100	467	115		135	130
特別入試	女子高等部					
文科国文	7					
文科英文	13					
家政科	20					

1952年

一般入試	入学定員	受験者	合格者	入学者	在校生1年	2年後の卒業生数
文科国文	80	375	91		102	100
文科英文	150	755	152		179	173
家政科	100	676	92		119	117
特別入試	女子高等部					
文科国文	8					
文科英文	37					
家政科	16					

1953年

一般入試	入学定員	受験者	合格者	発表補欠	入学者	2年後の卒業生数
文科国文	80	374	110	30	115	105
文科英文	150	660	192	50	198	185
家政科	100	433	128	20	137	133
	実数	1200				
特別入試	高等部					
文科国文	8					
文科英文	36					
家政科	16					

1954年

一般入試	入学定員	受験者	合格者	発表補欠	在校生1年	2年後の卒業生数
文科国文	100	590	120	38	129	118
文科英文	150	870	158	70	203	191
家政科	100	590	111	37	131	124
特別入試	高等部					
文科国文	11					
文科英文	30					
家政科	16					

1955年

一般入試	入学定員	受験者	合格者	補欠	入学者	2年後の卒業生
文科国文	100	312	123	20	133	124
文科英文	150	457	175	31	194	183
家政科	100	407	112	22	129	130
	実数	841				
特別入試	高等部					
文科国文	6					
文科英文	17					
家政科	17					

1956年

一般入試	入学定員	受験者	合格者	発表補欠	入学者	2年後の卒業生
文科国文	100	457	126	10	132	127
文科英文	200	755	243	20	266	247

家政科	100	345	110	10	123	119
	実数	1260				
特別入試	高等部					
文科国文	6					
文科英文	35					
家政科	11					

1957年

一般入試	入学定員	受験者	合格者	発表補欠	入学者	2年後の卒業生
文科国文	100	534	139	20	128	118
文科英文	200	1019	265	35	260	249
家政科	100	456	120	20	128	121
特別入試	高等部					
文科国文	2					
文科英文	17					
家政科	18					

1958年

一般入試	入学定員	受験者	合格者	発表補欠	入学者	2年後の卒業生
文科国文	100	566	124	10	130	122
文科英文	200	1083	259	20	266	155
家政科	100	408	113	14	142	136
特別入試	同盟校	高等部				
文科国文	1	16				
文科英文	8	31				
家政科	2	27				

1959年

一般入試	入学定員	受験者	合格者	発表補欠	入学者	2年後の卒業生
文科国文	100	757	132	10	131	122
文科英文	200	1450	251	20	261	255
家政科	100	558	122	9	130	136
特別入試	同盟校	高等部				
文科国文	1	7				
文科英文	7	33				
家政科	4	12				

1960年

一般入試	入学定員	受験者	合格者	発表補欠	入学者	2年後の卒業生
文科国文	100	768	182	10	185	123
文科英文	200	1329	329	25	329	247
家政科	100	570	143	10	152	125
特別入試	同盟校	高等部				
文科国文	4	21				
文科英文	10	22				
家政科	2	23				

1962年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発表補欠	入学者	2年後の卒業生数
国文科	100	939	183	16	194	184
英文科	200	1763	296	32	323	312
家政科	100	572	131	20	160	155
児童教育科	50	593	62	11	73	69
特別入試	同盟校	高等部				
国文科	1	2				
英文科	10	29				
家政科	2	12				
児童教育科	2	5				

1966年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発表補欠	入学者	2年後の卒業生数
国文	100		1276	203	15	193
英文	200		2455	345	24	315
家政 A	100	入試は区別なく合格後に分けた				A、B 合計
家政 B	50		836	153	10	146
児童教育	50		761	72	13	76
教養科	80		1455	95	16	96
						87

特別入試	同盟校	高等部	外国人学生			
国文科	1	1	0			
英文科	9	15	0			
家政科	1	4	0			
児童教育科	2	8	0			
教養科	1	7	0			

1967年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発表補欠	更に発表	入学者	2年後の卒業者数
国文	100	914	246	45	22	238	238
英文	200	1721	380	50	75	369	356
家政Ⅰ系列	合計	合計	99	21	15	102	
Ⅱ系列	150	691	96	15	0	98	198
児童教育	50	656	70	13	1	72	67
教養科	80	711	122	30	8	124	124
	実数	3409					
特別入試	同盟校	高等部	外国人学生				
国文科	2	2	0				
英文科	14	31	0				
家政科	2	9	1				
児童教育科	1	9	2				
教養科	2	7	0				

1968年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発表補欠	発送補欠	入学者	2年後の卒業者数
国文	150	1312	263	27	71	241	228
英文	200	2269	389	58	57	367	351
家政Ⅰコース	合計				28		
Ⅱコース	150	686	100	21	15	203	192
児童教育	100	800	105	12	18	122	112
教養科	100	1650	115	26	19	120	110
	実数	4859					
特別入試	同盟校	高等部	外国人学生				
国文科	1	2					
英文科	8	16					
家政Ⅰコース	0	6					
Ⅱコース	1	0					
児童教育科	5	7					
教養科	0	4					

1970年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発表補欠	入学者	2年後の卒業者数
国文学科	150	1181	254	52	247	234
英文学科	200	2078	394	71	342	336
家政Ⅰコース	合計		100	17		
Ⅱコース	150	625	104	11	203	197
児童教育学科	100	899	123	27	110	103
教養学科	100	1381	136	28	114	112
	実数	4298				
特別入試	同盟校	高等部	外国人学生			
国文学科	3	1				
英文学科	8	21				
家政Ⅰコース	1	6				
Ⅱコース	0	11				
児童教育学科	2	3				
教養学科	1	4				

1973年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発表補欠	発送	入学者	2年後の卒業
国文学科	150	1361	262	65	52	224	219
英文学科	200	2494	402	105	42	311	309
家政Ⅰコース	合計		120	35	14		
Ⅱコース	150	1298	115	17	29	182	182
児童教育学科	100	763	136	25		112	107
教養学科	100	1038	166	39		129	126
特別入試	同盟校	高等部	外国人学生				
国文学科	2	0					

英文学科	2	16					
家政Ⅰコース	0	計4名					
Ⅱコース	0						
児童教育科	3	6					
教養学科	0	4					

1976年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発表補欠	発送補欠	入学者	2年後の卒業生
国文学科	200	1439	261	43	33	235	224
英文学科	300	2463	406	57	24	330	333
家政Ⅰコース	100	769	123	33	0	103	I、Ⅱ 合計
Ⅱコース	100	1157	117	17	44	100	192
児童教育学科	100	1233	118	24	0	98	110
教養学科	150	1877	204	34	25	159	155
特別入試	同盟校	高等部	外国人学生				
国文学科	4	3	0				
英文学科	19	14	3				
家政Ⅰコース	0	0	0				
Ⅱコース	3	1	0				
児童教育科	11	14	0				
教養学科	1	1	0				

1978年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発表補欠	発送補欠	入学者	2年後の卒業生
国文学科	200	1963	269	32	98		231
英文学科	300	3021	404	60	82		363
家政Ⅰコース	100	985	132	25	41		合計
Ⅱコース	100	969	133	22	28		225
児童教育学科	100	1231	142	10	18		117
教養学科	150	2359	206	32	75		162
	実数	7045					
特別入試	同盟校	高等部	外国人学生		帰国特別聴講生		
国文学科	9	2	0		0		
英文学科	39	20	4		2		
家政コースⅠ	1	0	0		0		
Ⅱコース	2	1	4		0		
児童教育科	11	9	0		0		
教養学科	8	2	0		0		

1979年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発表補欠	発送補欠	入学者	2年後の卒業生
国文学科	200	2093	307	15	101	235	232
英文学科	300	3509	432	31	154	346	336
家政Ⅰコース	100	合計	143	6	59	103	
Ⅱコース	100	2290	144	5	32	113	209
児童教育学科	100	1823	141	13	13	114	110
教養学科	150	2235	242	13	46	160	158
	実数	8070					
特別入試	同盟校	高等部	外国人学生		帰国特別聴講生		
国文学科	15	1	0				
英文学科	37	11	0		2		
家政Ⅰコース	3	0	0		2		
Ⅱコース	1	3	3		1		
児童教育科	10	12	2				
教養学科	12	1	0				

1980年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発表補欠	発送補欠	入学者	2年後の卒業生
国文学科	200	2078	315	22	38	221	217
英文学科	300	3363	429	43	42	340	334
家政Ⅰコース	100	1195	145	18	25	106	合計
Ⅱコース	100	1088	142	20	28	102	204
児童教育学科	100	1449	133	23	29	110	109
教養学科	150	2261	236	24	26	152	147
特別入試	同盟校	高等部	外国人学生	帰国者			
国文学科	5	1	2				
英文学科	44	24	1	3			

家政Ⅰコース	4	0	1	2		
Ⅱコース	4	1	0	1		
児童教育学科	7	14	0			
教養学科	12	5	2	2		

1982年

一般入試	入学定員	受験者	合格者	発表補欠	発送補欠	入学者	2年後の卒業生
国文学科	200	1762	325	27	69	258	260
英文学科	300	2518	439	19	131	380	363
家政Ⅰコース	100	1506	144	14	45	106	合計
Ⅱコース	100	1095	151	11	37	119	223
児童教育学科	100	1258	138	16	37	106	102
教養学科	150	1803	254	13	51	162	156
特別入試	同盟校	高等部	外国人学生	帰国者			
国文学科	10	3	0	0			
英文学科	44	32	2	2			
家政Ⅰコース	7	1	0	0			
Ⅱコース	5	2	2	0			
児童教育学科	11	7	3	0			
教養学科	10	7	1	0			

1984年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発表補欠	発送補欠	手続き者	在校生1年	2年後の卒業生数
国文学科	200	1564	320			214	236	234
英文学科	300	398	316			184	230	合計
Ⅱコース	100	1955	213	32	32	122	169	384
家政Ⅰコース	100	1296	175			117	125	合計
Ⅱコース	100	961	185			114	124	246
児童教育学科	150	909	130	25	25	81	106	103
教養学科		1766	243		16	148	183	179
	実数	1582						
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者			
国文学科	10	13	1	0	0			
英文学科	17	18	7	3	5			
Ⅱコース	14	16	13	3	5			
家政学科Ⅰ	10	4	0	0	0			
Ⅱコース	3	0	1	5	1			
児童教育学科	8	9	6	11	1			
教養学科	18	13	7	2	0			

1986年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発送	入学者	在校生1年	在校生2年	2年後の卒業生数
国文学科	200	1759	319	10		205		196
英文学科	180	2652	317	103		219		合計
Ⅱコース	120	2781	214	1		158		370
家政Ⅰコース	100	2343	139	6		106		合計
Ⅱコース	100	2264	156	24		108		205
児童教育学科	100	1162	115	16		103		102
教養学科	150	2388	205	30		154		150
	実数	7530						
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女		
国文学科	10	3	2	0	0	5		
英文学科	14	14	5	2	1	0		
Ⅱコース	18	22	10	1	7	5		
家政学科Ⅰ	15	8	0	0	0	1		
Ⅱコース	6	3	2	3	1	2		
児童教育学科	9	9	7	7	0	3		
教養学科	18	21	5	4	0	4		

1987年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発送	入学者	在校生1年	2年後の卒業生数
国文学科	200	1085	328		194	242	236
英文学科	180	1850	339		177	256	合計
Ⅱコース	120	1871	262	9	118	165	409
家政Ⅰコース	100	1426	156		92	117	合計
Ⅱコース	100	1348	146		90	124	236
児童教育学科	100	624	131	2	80	105	105

教養学科	150	1276	226		119	172	169
	実数	4605					
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女	
国文学科	10	10	0	0	1	5	
英文学科	12	17	3	4	9	1	
Ⅱコース	18	17	1	1	7	4	
家政学科Ⅰ	6	7	1	2	0	2	
Ⅱコース	8	5	1	2	1	3	
児童教育学科	9	7	3	4	2	5	
教養学科	16	19	2	2	3	5	

1988年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発送	入学者	在校生1年	2年後の卒業者数
国文学科	200	1286	337			245	245
英文学科	180	1879	331	3		393	合計
Ⅱコース	120	1869	259	20			392
家政Ⅰコース	100	1288	147	3		230	合計
Ⅱコース	100	1186	154				228
児童教育学科	100	830	144			113	110
教養学科	150	1463	203	27		182	172
	実数	4774					
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女	
国文学科	3	9	1	1	0	5	
英文学科	14	9	0	1	2	0	
Ⅱコース	20	15	8	0	2	5	
家政Ⅰコース	10	9	1	2	0	0	
Ⅱコース	2	8	0	1	0	5	
児童教育学科	10	8	3	5	0	4	
教養学科	21	17	4	2	4	5	

1989年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	入学者	在校生1年	2年後の卒業者数
国文学科	200	928	290	199	213	198
英文学科	180	1463	300	192	240	合計
Ⅱコース	120	1457	243	111	180	404
家政Ⅰコース	80	1030	117	76	101	合計
Ⅱコース	80	1073	103	64	123	197
児童教育学科	100	690	121	76	185	118
教養学科	150	1060	208	116	55	185
芸術学科	40	127	66	46	1198	43
	実数	3908				
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女
国文学科	8	4	1	3	1	5
英文学科	13	12	0	1	3	0
英語学	17	18	8	3	5	5
家政Ⅰコース	6	7	0	3	0	0
Ⅱコース	9	8	0	4	0	5
児童教育学科	8	15	3	4	0	4
教養学科	21	18	3	3	1	5
芸術学科	—	—	0	4	—	—

1990年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発送	入学者	2年後の卒業者数
国文学科	200	1430	332	68	254	244
英文学科	180	2382	354	109	225	合計
Ⅱコース	120	2390	246	103	182	402
家政Ⅰコース	80	1494	119	45	94	合計
Ⅱコース	80	1512	109	34	92	182
児童教育学科	100	805	140	51	121	117
教養学科	150	1924	210	58	174	174
芸術学科	40	236	59	0	57	57
	実数	5410	1569			
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女
国文学科	5	11	1	3	1	5
英文学科	14	12	0	0	0	5
Ⅱコース	16	17	3	2	2	0
家政Ⅰコース	7	8	0	2	0	5

Ⅱコース	7	7	0	4	2	0
児童教育学科	5	8	4	6	0	3
教養学科	21	19	3	4	1	3
芸術学科	—	—	4	1	—	—

1991年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発送	入学者	2年後の卒業生数
国文学科	200	1242	341	0	247	245
英文学科	180	1970	375	46	244	合計
Ⅱコース	120	2012	267	25	179	422
家政Ⅰコース	80	1058	138	0	108	合計
Ⅱコース	80	1086	127	3	105	203
児童教育学科	100	1065	150	26	124	123
教養学科	150	1666	222	11	171	163
芸術学科	40	158	50	3	46	45
実数		4879				
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女
国文学科	7	16	1	3	0	5
英文学科	13	10	1	0	4	0
Ⅱコース	12	13	1	1	7	5
家政Ⅰコース	8	3	1	2	0	0
Ⅱコース	7	7	0	4	1	2
児童教育学科	5	8	1	9	2	5
教養学科	17	16	6	4	6	5
芸術学科	—	—	3	1	2	—

1992年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発送	入学者	2年後の卒業生数
国文学科	200	1601	312	55	220	219
英文学科	180	2207	332	61	241	合計
Ⅱコース	120	2256	278	47	172	395
家政Ⅰコース	80	1459	125	34	91	合計
Ⅱコース	80	1462	125	6	91	185
児童教育学科	100	759	149	12	99	97
教養学科	150	1761	235	25	155	156
芸術学科	40	137	50		49	49
実数		5449				
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女
国文学科	5	11	0	1	0	5
英文学科	15	16	1	1	3	3
Ⅱコース	14	11	3	1	3	2
家政Ⅰコース	9	3	0	2	0	1
Ⅱコース	6	8	1	3	1	3
児童教育学科	4	8	1	7	3	4
教養学科	17	13	0	2	5	3
芸術学科	—	—	3	0	0	—

1993年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発送	入学者	2年後の卒業生数
国文学科	200	1134	310	6	224	219
英文学科	180	1664	334		251	合計
Ⅱコース	120	1717	348		185	422
家政Ⅰコース	80	850	133		105	合計
Ⅱコース	80	874	115		102	204
児童教育学科	100	638	166		117	116
教養学科	150	1079	242		174	170
芸術学科	40	159	46		41	41
実数		4343				
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女
国文学科	3	11	0	3	0	5
英文学科	2	10	0	0	4	3
Ⅱコース	20	5	1	3	6	2
家政Ⅰコース	3	3	0	3	0	1
Ⅱコース	7	8	0	4	0	3
児童教育学科	5	6	2	5	0	4
教養学科	14	12	1	3	4	3
芸術学科	—	—	1	1	3	—

1994年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発送補欠	入学者	2年後の卒業者数
国文学科	200	1083	306	22	210	202
英文学科	180	1590	308	22	216	合計
Ⅱコース	120	1638	316	17	171	378
家政学科	160	1094	212	54	187	183
児童教育学科	100	671	132	14	108	101
教養学科	150	1133	230	22	163	158
芸術学科	40	92	53		51	49
	実数	4222				
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女
国文学科	4	19	0	3	1	5
英文学科	12	9	0	2	5	3
Ⅱコース	10	11	0	1	3	2
家政	8	18	1	8	2	3
児童教育学科	4	13	4	6	2	3
教養学科	9	8	3	3	2	3
芸術学科	—	—	3	1	1	—

1995年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発送	入学者	2年後の卒業者数
国文学科	200	923	327	62	231	212
英文学科	180	1543	330	76	207	合計
Ⅱコース	120	1612	348	47	187	382
家政学科	160	807	262	60	185	180
児童教育学科	100	642	126	14	111	109
教養学科	150	1039	221	67	149	148
芸術学科	40	137	56	3	45	39
	実数	3937				
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女
国文学科	1	8	0	2	0	5
英文学科	6	7	1	0	2	3
Ⅱコース	6	7	1	0	2	2
家政学科	7	14	1	5	0	3
児童教育学科	8	19	2	4	1	3
教養学科	15	11	2	1	3	3
芸術学科	—	—	0	0	1	—

1998年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	発送補欠	入学者	在校生1年	2年後の卒業者
国文学科	200	963	338	71	217	219	216
英文学科	180	1570	520		299	302	合計
Ⅱコース	120	1584	404	13	178	179	449
家政学科	160	895	184	89	195	196	190
児童教育学科	100	554	159		113	116	112
教養学科	150	1478	259	162	160	164	154
芸術学科	40	103	54		50	52	
	実数	4337					
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女	キリスト者
国文学科	5	48	1	0	0	5	—
英文学科	6	15	0	0	0	1	—
Ⅱコース	5	23	0	0	2	4	—
家政学科	9	61	1	0	1	5	—
児童教育学科	6	28	2	0	1	1	2
教養学科	12	20	1	1	0	1	—
芸術学科	—	—	3	0	1	—	—

2000年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	入学者	総入学者	2年後の卒業生
国文学科	200	599	322	169	232	217
英文学科	180	1186	349	172	227	220
Ⅱコース	120		285	105	156	153
家政学科	160	516	194	115	198	193
児童教育学科	100	644	160	73	113	113
教養学科	150	826	307	143	185	177
芸術学科	40	68	55	42	43	41
	実数	2952				

特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女	キリスト者	再入学
国文学科	3	59	0	0	0	1	—	1
英文学科	2	51	0	0	0	2	—	0
Ⅱコース	6	42	0	0	2	2	—	0
家政学科	2	80	0	1	0	1	—	0
児童教育学科	11	24	1	1	0	2	2	2
教養学科	10	32	0	0	0	1	—	0
芸術学科	0	1	0	0	0	—	—	0

2002年

一般入試	入学定員	志願者	合格者	入学者	総入学者	2年後の卒業生			
国文学科	200	364	206	129	238	227			
英文学科	180	728	242	159	229	215			
Ⅱコース	120	747	146	61	142	133			
家政学科	160	344	120	77	181	180			
児童教育学科	100	542	122	67	115	111			
教養学科	150	692	247	138	205	199			
芸術学科	40	72	29	19	42	41			
	実数	2052							
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女	キリスト者	再入学	
国文学科	5	65	1	0	0	0	—		0
英文学科	2	66	1	0	0	1	—		0
Ⅱコース	12	67	0	0	0	2	—		0
家政学科	8	68	1	0	0	3	—		0
児童教育学科	16	23	0	0	2	5	3		0
教養学科	6	62	0	0	0	2	—		0
芸術学科	0	4	1	0	0	—	—		0

2004年

2024年

3科目	入学定員	志願者	合格者	入学者	総入学者	2年後の卒業生		
国文学科	200	275	94	31	228	222		
英文学科	180	522	200	107	226	206		
Ⅱコース	120	540	135	67	144	139		
家政学科	160	260	34	22	184	187		
児童教育学科	100	458	118	80	119	117		
教養学科	150	571	131	70	181	173		
芸術学科	40	61	38	22	50	44		
	実数	1644						
センター入試	志願者	合格者	入学者					
国文学科	317	47	8					
英文学科	324	51	9					
Ⅱコース	264	26	3					
家政学科	224	30	2					
児童教育学科	320	20	0					
芸術学科	—							
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女	キリスト者	社会人
国文学科	2	120	0	0	0	0	—	0
英文学科	1	55	0	0	0	0	—	—
Ⅱコース	8	63	0	0	4	1	—	—
家政学科	3	97	1	1	0	2	—	—
児童教育学科	13	22	0	0	1	3	2	—
教養学科	4	85	0	0	0	4	—	0
芸術学科	0	2	1	0	0	—	—	—

2006年

3科目	入学定員	志願者	合格者	入学者	総入学者	2年後の卒業生
国文学科	190	220	70	35	228	228
英文学科	160	473	151	95	182	182
Ⅱコース	120	478	90	44	121	121
家政学科	150	187	58	35	187	187
教養学科	140	267	132	74	180	180
芸術学科	40	61	35	9	42	42
子ども学科	100	424	51	31	109	109
	実数	1346				

センター入試	志願者	合格者	入学者						
国文学科	470	15	2						
英文学	267	65	6						
Ⅱコース	314	42	3						
家政学科	151	30	3						
教養学科	187	50	8						
芸術学科	30	20	4						
子ども学科		10	1						
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女	キリスト者	自己推薦	社会人
国文学科	1	141	0	0	0	1	—	47	1
英文学	3	44	0	0	0	0	—	34	—
Ⅱコース	3	67	0	0	1	3	—	—	—
家政学科	6	96	0	0	0	3	—	43	—
教養学科	5	68	0	1	0	1	—	21	0
芸術学科	0	6	0	1	1	0	—	12	—
子ども学科	7	52	0	1	2	4	1	10	0

2008年

3科目	入学定員	志願者	合格者	入学者	総入学者	2年後の卒業生				
国文学科	190	184	65	37	209	200				
英文学科	160	412	144	94	219	207				
Ⅱコース	120	406	104	59	140	134				
家政学科	150	220	77	53	204	200				
教養学科	140	240	120	72	178	170				
芸術学科	40	24	30	17	62	51				
子ども学科	100	21	90	54	118	103				
	実数	1082								
後期	志願者	合格者	入学者	センター入試		志願者	合格者	入学者		
芸術学科	17	6	6	国文学科		249	82	19		
				英文学科		315	100	20		
				英語学		238	100	23		
				家政学科		327	50	3		
				教養学科		171	55	13		
				芸術学		61	59	15		
				子ども学科		199	30	1		
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女	キリスト者	短期大学士	社会人	
国文学科	0	109	0	0	0	0	—	0	1	
英文学	1	35	0	0	0	0	—	0	0	
Ⅱコース	3	52	0	0	0	0	—	0	0	
家政学科	4	92	1	0	1	1	—	0	2	
教養学科	1	66	0	1	0	0	—	0	0	
芸術学科	0	2	1	0	0	0	—	0	0	
子ども学科	8	28	1	0	2	2	1	1	0	

2011年

3科目	入学定員	志願者	合格者	入学者	2科目	志願者	合格者	入学者	総入学者
国文学科	190	89	56	19		88	42	16	225
英文学科	160	151	67	25		152	55	27	183
Ⅱコース	120	148	70	19		149	70	21	151
家政学科	150	71	48	18		51	32	5	180
教養学科	140	192	98	23		148	60	12	166
芸術学科	40	32	27	6		15	13	3	40
子ども学科	100	128	40	10		122	32	8	103
一般後期	志願者	合格者	入学者	センター入試		志願者	合格者	入学者	2年後卒業生数
国文学科	40	14	11			211	91	31	218
英文学	24	5	4			193	61	9	176
Ⅱコース	23	16	13			156	60	13	141
家政学科	5	4	4			82	50	14	174
教養学科	20	8	6			152	60	11	151
芸術学科	1	1	1			40	34	4	38
子ども学科	29	5	5			143	25	9	112
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女	キリスト者	短期大学士	社会人
国文学科	1	86	0	0	0	0	—	0	0
英文学	0	27	0	0	0	0	—	0	0
Ⅱコース	1	22	1	0	1	1	—	0	2
家政学科	2	58	0	0	0	0	—	0	1
教養学科	2	40	1	0	0	0	—	0	1

芸術学科	1	4	1	?	1	1	—	0	0
子ども学科	10	16	1	0	0	0	4	0	1

2012年

2012年

3科目	入学定員	志願者	合格者	入学者	2科目	志願者	合格者	入学者	総入学者	2年後卒業数	
現代教養学科											
日本専攻	130	97	77	34		70	54	22	161	144	
世界専攻	190	224	120	62		183	71	33	221	202	
人間社会専攻	160	195	63	29		133	42	17	193	186	
子ども学科	100	133	37	24		133	26	15	108	103	
	実数	502				395					
一般後期	志願者	合格者	入学者	センター入試	志願者	合格者	入学者	センター後期	志願者	合格者	入学者
現代教養学科											
日本専攻	27	10	9		100	53	11		39	15	9
世界専攻	31	8	5		272	69	9		29	8	1
人間社会専攻	59	13	10		329	53	17		50	10	2
子ども学科	—				169	22	4		7	3	3
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女	キリスト者	短期大学士	社会人		
現代教養学科											
日本専攻	0	45	0	0	0	3	0	0	1		
世界専攻	6	55	1	1	4	0	0	0	1		
人間社会専攻	6	74	0	1	0	4	0	0	2		
子ども学科	10	22	2	0	0	3	3	0	1		

2013年

3科目	入学定員	志願者	合格者	入学者	2科目	志願者	合格者	入学者	総入学者	2年後の卒業数	
現代教養学科											
日本	130	99	60	23		103	60	17	162	153	
国際	190	150	92	38		156	88	43	222	201	
人間社会	160	107	79	39		101	67	38	213	196	
子ども学科	100	161	28	15		120	25	18	104	105	
	実数	405				390					
一般後期	志願者	合格者	入学者	センター入試	受験者	合格者	入学者	センター後期	受験者	合格者	入学者
現代教養学科											
日本専攻	21	14	12	267	54	54	14		7	6	2
世界専攻	35	11	9	314	92	69	14		27	9	1
人間社会専攻	23	16	14	151	76	63	19		14	12	5
子ども学科	—	—	—	187	26	29	4		20	11	8
特別入試	同盟校	指定校	高等部	外国人学生	帰国者	卒子女	キリスト者	短期大学士	社会人		
現代教養学科											
日本専攻	3	58	0	0	0	0	3	0	1		
世界専攻	0	62	0	1	4	2	2	0	1		
人間社会専攻	1	62	0	0	0	7	1	0	2		
子ども学科	7	19	0	1	2	2	4	1	1		

資料によっては数値が異なることもあり、すべてこのとおりとは言えない。

実数とは併願者の数を除いた受験者数である。

ここでは一般を対象の入試以外の特定の受験生を対象とした入試を特別入試とした。

入学者とは個別の入試形態ごとの入学者数であるが、2000年以前では全入試の合計数の場合もある。

推薦入試の人数は入学者数を示す。

—印は入試を行っていないということを示している。

無記入の欄は資料がなく記入できない場合と英文、家政の二コース合計の片方の場合がある。

引用文献

- 1) 日本私立短期大学協会 会報 1号 pp.52-53 1951年
- 2) 日本私立短期大学協会 会報 3号 pp.52-53 1955年
- 3) 日本私立短期大学協会 会報 4号 pp.89-93 1956年
- 4) 短期大学教育18号 p.25 1964年
- 5) 平成19(2007)年度私立大学・短期大学入学志願動向 日本私立学校・共済事業団
- 6) 短期大学教育 No.35 pp.96~97、1977年
- 7) 青山学報 No.82 pp.21~22、1977年

History of Aoyama Gakuin Women's College Entrance Examination

Shin-ya TANIMOTO

The entrance examination system of Aoyama Gakuin Women's Junior College (Aoyama) has changed according to the trend of the times, along with the other 148 junior colleges, established in 1950. In these early years, Aoyama accepted 7.7% of the total number of new women junior colleges students and 4.5% of the total of all new students. Till the days of the 1960s-1990s baby boom, 3 subjects of the entrance examination in Japanese and English and social studies and mathematics, were given mainly in one day. However, other kinds of entrance examination also started in these times, for example, the systems of admitting students based on recommendations. From the second half of the 1990s, Aoyama arranged the system of entrance examination by increasing examination types because the number of candidates had decreased.

Keywords : Entrance examination, Junior college, 3 subjects of the entrance examination
Admission of entrance by recommendation
